

溶存酸素キット30

型式 DO-30

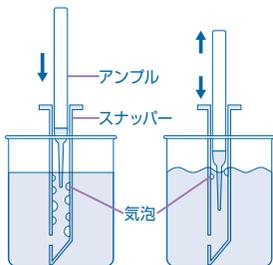
使用法

アルカリ性インジゴカルミン法

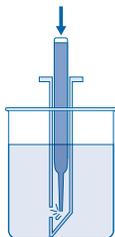
測定範囲 0~7以上 mg/L

反応時間 3分

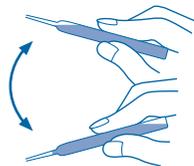
測り方



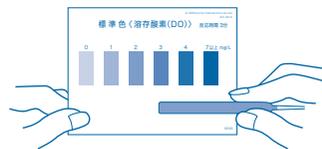
① 付属のスナッパーを水に入れ、アンブルを差します。アンブルを軽く上下させ、スナッパー内に附着した気泡を取り除きます。(アンブルが折れないよう注意します。)



② アンブルを押し込み、先端を折り2秒待ちます。所定量の検水が吸い込まれ、発色します。



③ アンブル中央を指で持ち、中の泡(不活性ガス)が端から端まで移動するように2回転倒させ、混ぜます。

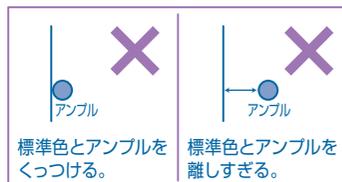


④ 3分後に1回転倒させ、アンブルを標準色と比べます。同じか、または近い色の数値がその検水の溶存酸素濃度です。

比色のコツ

以下のように比色することで、アンブルの影や映りこみ等の影響による誤差を少なくします。

1. 標準色は、明るい方を向いて、目の高さで垂直に持ちます。
2. アンブルは標準色から少し(約1cm)離して比色します。



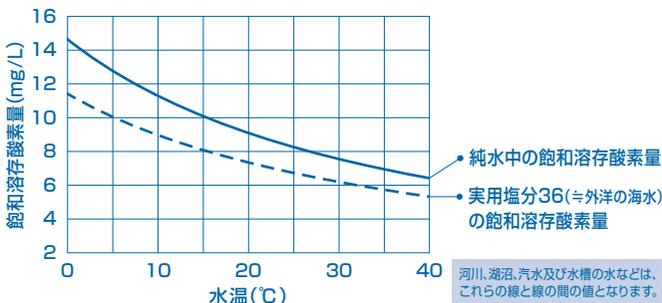
株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

神奈川県横浜市緑区白山1-18-2
ジャーマンインダストリーパーク
TEL: 045-482-6937

水中の溶存酸素量

水の中に溶け込む最大の酸素量を飽和溶存酸素量と言い、右図のように塩濃度や温度により変動します。

また、水温の急激な上昇や植物の光合成により、溶存酸素は飽和量以上に増加して過飽和になる場合もあります。



水温による飽和溶存酸素量の変化

測定に関する注意

1. 検水の温度が高いと、中に残っている不活性ガスが膨張して検水を押し出したり、冷却時に収縮して空気が入り、誤差の原因となります。
2. 測定時間後にそのまま置いておくと、大気中の酸素と反応して先端から発色が変化していきます。反応時間は必ず守ってください。
3. 海水測定時には沈殿を生じる場合がありますが、測定は可能です。

使用前後の注意

アンプルはガラス製です。

保存・取り扱い・廃棄の際のケガには十分ご注意ください。

応急措置

- 内容物が目に入ってしまったら → すぐに15分以上、水で洗い流してください。
痛みや異常がなくても直後に必ず眼科医の診断を受けてください。
- 内容物が皮膚や衣服にふれたら → すぐに水で洗い流してください。
- 内容物が口に入ってしまったら → すぐに水で口の中を洗い流してください。
- 内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。
試薬の有害性は外箱の「GHSに基づく表示」、SDSをご参照ください。

保管

- ・アンプル内の試薬は光にさらされると劣化します。箱からアンプルを取り出した後は必ずすぐに箱の蓋を閉めてください。また、取り出したアンプルは速やかに使用してください。
- ・本製品は涼しい暗所に保管してください。

廃棄

- ・アンプル内の試薬は約pH11です。
- ・事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。